

カリキュラム・教科書・アセスメントコンポーネント

ニュースレター (第32回)

G2教科書の最終段階で大わらわ!

ご存じのように、今年の1月より CREATE では小学2年生用の新しい教科書と教員用指導書の開発に取り組んできました。その間、CREATE の各教科のカリキュラム開発チーム (CDT) メンバーは、プロジェクト専門家とはもちろんのこと、教科別カリキュラム委員会 (SWC) の先生方とも何度も議論を重ねながら開発作業を行い、ようやく先月9月にはカリキュラム全般の最終決定権をもつ国家カリキュラム委員会 (NCC) による内容確認、さらに教育省ミャンマー民族言語局 (DMNL) による校正作業を終え、ようやく最終校にまで到達して「ホッ」と一息というところまで来ていました。

ところが、今月に入ってすぐ、教育大臣から「10月4日、開発中の教科書に係る会議を行うので、SWC 及び CDT はネピドーに来るように！」という突然の召集がかかりました。開催予定日はちょうどミャンマーの雨季明けを祝う連休 (10月4日～8日までの5連休) の初日にあたり、CDT の中には久しぶりに里帰りの予定を立てていた人もいたようですが、仕方なく、その予定をキャンセルしてネピドーへ向かいました。

この会議で出された教育大臣からのコメントは、驚くべきことに、新しい教科書の頁数の削減でした。すべての教科において「**頁数が多すぎるので削減するように!**」という指示が出されたのです。一例をあげると、英語は30ページの削減 (25%減)、理科は20ページの削減 (20%減)、社会は30ページの削減 (40%減) です。実は、この指示は各教科の内容を検討した上で出されたものではなく、単に「児童が毎日持ち運ぶには重た過ぎる」、「小学校の教員は9教科を一人で教えなければならず、内容が多いと負担が大き過ぎる」という教育の質とは別のところから出されたものです。こうした大臣の一方的な指示に対し、SWC の中からは反対意見も出されたようですが、その声は一部であり、結局、一度持ち帰って再検討することになりました。

こうして、今まさに SWC と CDT の間で、プロジェクト専門家も巻き込みながら、大臣の指示への対応について苦慮している状況です。大臣から出された教科書完成期限は11月6日 (月) なので、あまり時間的な余裕はないのですが、CDT の努力で何とか頑張っているところです。



現在の小学2年生用教科書の開発の進捗状況 (2017年10月27日現在)

教科名	進捗状況	頁数の削減	G1教科書頁数
ミャンマー語	DMNLでの最終校の確認中	131→120	152
英語	NCCでの再校の確認中	144→113	111
算数	NCCでの最終校の確認中	160→152	160
理科	NCCでの最終校の確認中	95→80	76
社会	NCCでの最終校の確認中	82→64	80
道徳公民	NCCでの最終校の確認中	68	68
ライフスキル	NCCでの最終校の確認中	52	67
体育	完成	60	64
図工	完成	48	45
音楽	完成	46	41

注: 上記情報は10月27日現在のものです。頁数などについてはNCCからのコメントを受けてまだ変更の可能性はあります。

みずおち

水落文科副大臣が CREATE に視察！

10月11日（水）水落文科副大臣が CREATE を訪問されました。今回の副大臣の来緬は、ネピドーで開催されるアセアン・スポーツ会議への出席が主目的でしたが、ちょうど我が国がミャンマーの教育改革支援の一環として、体育を含めた初等教育の教科書及び教員用指導書の開発に技術協力しているということで、その開発現場の視察も急遽含まれたようです。

視察は午前9時半から10時までの30分間という極めて限られた時間でしたが、加藤総括からのプロジェクト概要の説明の後、ヤンキン教員養成学校付属校に向かわれ、小学1年生の体育の授業を観察されました。

付属校の先生方と児童たちは、わざわざ日本から文科副大臣が来られるというので、今か、今かと首を長くして待ちながら、体育の授業（縄跳び）を延々一時間近くも行っていたようで、副大臣が見学に来られた時には、子どもたちはすでに全身汗だくになっていました。それにも関わらず、子どもたちは副大臣の前で、もてるだけの力を振り絞って一生懸命縄跳びに取り組んでいた姿はとても微笑ましいものでした。

最後に、副大臣は付属校の先生にお土産のサッカーボールを贈呈され、同校を後にされました。



ヤンキン教員養成学校付属校で体育の授業を観察される
水落副大臣（右端）と説明をされる岡出専門家

毎日新聞、CREATE を取材

10月20日（金）午後、我が国の毎日新聞社が CREATE に来られ、プロジェクトの活動を取材されました¹。同取材では、まず CREATE 側から本プロジェクト概要についての説明がなされた後、現在開発中の新しい教科書と教員用指導書の内容及びその特徴について、記者からの質問に答える形で解説が行われました。記者から出された質問の中には「日本では PISA などが強く意識されていますが、ミャンマーではどうですか？」、「日本側の専門家の皆さんにとって、ミャンマーの教育省側と意見が合わなかったりすることはありませんか？」、「教科数が多くて教科書の持ち運びが子どもたちにとって負担になっているなどの問題は出ていませんか？」等、なかなか鋭い指摘も含まれていたようです。

その後、記者は CDT が作業する各部屋を巡られ、そこでも各教科の内容に関していろいろと質問をされていたということです。全体で約一時間半程度でしたが、CREATE の概要はしっかり掴んで帰られたようです。

CREATE 事務所の後は、新しい教科書を使った授業視察のためにバハン第1小学校に行かれ、「理科」と「体育」の二コマの授業を見学されたようです。「理科」ではヒヤシンスの観察の授業、「体育」では縄跳びの授業だったそうです。後からお聞きした話ですが、同校の取材に際しては、警察官の厳重な警備があったということです。これは、教育省基礎教育局から地元警察に要請を行ったものと思われ、その厳重さに、正直、驚きました！

CREATE の一部機能、ヤンゴン大学の新事務所スペースへ移動？

¹ 本記事は、筆者が現地不在であったため、取材に対応された宮原専門家からの報告に基づいて記載しています。

今年の夏頃から言われていたことですが、いよいよCREATEの一部を新しい事務所へ移動させる案が現実味を帯びてきました。新しい事務所はヤンゴン大学の敷地内にあり、教育省がCREATEのために準備してくれたものです。この話はもともと、教科書開発の過程で頻繁にSWCとの話し合いが必要になってくるであろうということから、プロジェクト事務所が多くのSWCメンバーの所属先であるヤンゴン大学に近接する形であった方が便利だろうという教育省の配慮から生まれたものです。しかし、現実としては、プロジェクト開始の2014年5月からほぼ三年もかけて、現在のプロジェクト事務所を快適な作業場に改善してきたことを考えると、今から新しい事務所へ移動することは作業の効率性から見てもあまり薦められることではありません。しかし、教育大臣からすでに「至急に移動すべし！」という指示が出されており、対応せざるを得ない状況なのです。

そこで、CREATEでは妥協案としてSWC座長がヤンゴン大学の教授である「ミャンマー語」、「英語」、「算数」、「理科」、「社会」、「道徳公民」の6教科のCDTのみ一週間に数日程度、新しい事務所で作業するようにしようと考えています。そして、早速、今月から、現在使用していない作業机や椅子などの移動を開始したところです。今後、これら6教科に関しては、新しい事務所と現在の事務所という二つの場所での作業という状態になります²。



以上

文責：田中義隆（カリキュラム・チームリーダー）
編集：宮原光（プロジェクト・コーディネーター）

² その後、移動は中断されています。